

第2回蒲郡市公共施設マネジメント実施計画策定会議 議事録

1 日時

平成28年10月28日（金）午後2時から午後4時まで

2 場所

蒲郡市役所 303 会議室

3 出席者

(1) 座長

名古屋大学 大学院工学研究科 准教授 恒川 和久

(2) 委員

蒲郡市総代連合会 会長 酒井 雅幸

蒲郡市社会福祉協議会 理事 石川 たづ子

蒲郡商工会議所 中小企業相談所長 富田 徹

公益社団法人愛知建築士会蒲郡支部 相談役 青山 俊樹

椋山女学園大学 大学院生活科学研究科

生活科学部生活環境デザイン学科 教授 村上 心

公募 伊藤 近代

公募 水藤 麻美

4 議事

(1) これまでの経緯と市の現状

資料1-1及び1-2の内容について事務局から説明後、議論を行った。

(議論の内容)

- ・ 委員) 長寿命化シナリオにすることで、通常周期において期間後半に発生する費用が、50年間の期間外に消えている。もっと長期間で見ると、長寿命化した場合の費用も変わってくるのではないか。
- ・ 座長) 60年間で建て替える場合、80年間で建て替える場合で、期間を区切らずにトータルで見た総額は変わらないが、長寿命化することで1年あたりの費用は減る。ただし、現時点で健全でない施設や、大規模改修が行われていない施設もあり、全ての施設を80年間利用することは難しい。あくまでも比較検討するための資料という位置づけだろう。
- ・ 委員) 人口減少を踏まえた上で、コンパクトシティ化や施設の統廃合を進

めていく必要がある。図書館や市民会館を1つの施設にすることも考えられる。既存の建物の建替えだけでなく統廃合や、既存の建物の利活用を考えなくてはならない。また、公共サービスそのものをどうするかを踏まえて、公共施設のあり方を考える必要がある。

- ・ 委員) 本会議の役割として、他の委員のご指摘のような、公共サービスの内容自体を検討することも含まれているのか。議論すべき範囲を示していただきたい。公共サービスの内容自体が変化することは、何らかの形で計画に反映されるのか。
- ・ 座長) 公共サービスの内容は、各担当部局が検討・判断すべき事項であり、この計画だけで公共サービスの内容を決定することは難しいが、公共サービスの内容の再検討が必要という意見を出すことはできる。

(2) 若者まちづくりミーティング実施結果

資料2の内容について事務局から説明後、議論を行った。

(議論の内容)

- ・ 委員) 若者の考え方は非常に前向きだと感じた。海側の中心部に集約するという意見が提出されていたが、津波の可能性や、アクセスの問題もある。またギャンブルが行われている競艇場の周辺に公共施設が集中してよいのかといった点も考える必要がある。山手のバスが通っていない地域にも配慮し、全体でバランスを取ることも必要ではないか。
- ・ 委員) 公共施設の維持管理には、予想されている以上に、多額の費用が必要となると考えられる。早く結論を出し、事業を始めることが重要である。市民も後押ししていくことが必要だろう。
- ・ 委員) 将来的に人口が減っていく中で、身の丈にあった公共施設のあり方を目指す必要がある。竹島地域については、お金を落としてもらう形にしていくことが必要と感じる。竹島に観光の機能を集約するといった提案や、魅力的なカフェを設置するといった提案は良いと思う。高齢者も利用するのではないか。
- ・ 委員) 新たに建設する形の提案が多いと感じた。今ある施設を全く違う方法で使うといった視点でも意見があると良いのではないか。放課後児童クラブを学校内に移設した場合、既存の放課後児童クラブの建物をどう利用するか考える必要がある。撤去するのにも費用が必要となる。また提案の中には、健康維持のためのウォーキングなど、既に市が実施しているサービスがある。その存在を若者に浸透させられていないのだなと感じた。
- ・ 座長) 施設の空きスペースの利用などの意見もあった。万遍なくお金を使

うのでなく、資源のある竹島などに集中して使うという話だった。市のサービスが若者をはじめとする市民に浸透していない点については、若者からも指摘があった。

- ・ 委員) 若者から意見を募る試みは素晴らしい。また、意見の内容も素晴らしいと思う。しかし、資料「若者まちづくりミーティング実施結果」の内容には、すべての意見が掲載されていないので客観性がない。都合よく使われてしまう危険性もあるのではないか。
- ・ 委員) 良い意見だと感じたが、「適正化」や「効率化」についての意見はあまりなかったように思う。施設の維持管理のため利用料の受益者負担を適切な水準にすべきではないか。商工会議所でも貸会議室があるが、料金は市民会館の3～5倍となっている。それでも維持管理が難しい状況である。
- ・ 委員) 「若者の意見によるまちづくりの方向性」について、総じて結構だと思う。高度経済成長期には、施設を建設していくことが必要だったが、負のレガシーとなっている。中心部への集約やスクラップアンドビルドを進め、将来のランニングコストを低減する必要がある。竹島水族館は年間30万人程度の来客があり、全国的な観光地として蒲郡市の宣伝を行っているが、水族館の建物や周辺の土産物売り場などは老朽化が進んでいる。市として周辺も含めて整備する必要がある。
- ・ 座長) 全体的には、若者の意見は素晴らしいというご意見であった。しかし、現実的に考えなくてはいけない部分もあるというご意見だった。

(3) マネジメントを進める上での考え方

資料2の内容について事務局から説明後、議論を行った。

(議論の内容)

- ・ 委員) 基本的な考え方としては良いと思うが、計画として、ターゲットや目標水準を設定する必要がある。どこまでコストを落とすのかなどの目標水準が示されると、議論しやすいのではないか。5つの基本方針それぞれに評価指標を設ける方法や、全体で1つの目標を設定する方法が考えられる。また、どういう考え方で目標を設定したか、記述する必要がある。
- ・ 座長) 例えば満足度や利用率なども指標のひとつとなると考えられる。
- ・ 委員) 施設の配置の見直しの部分に「市民のニーズ」とあるが、市民の意見を、どの段階でどう把握するのか。
- ・ 事務局) 方針を整理する段階では、若者まちづくりミーティングや本会議を通じて市民の意見を把握していく。個別施設の計画や、地区別の計画を策定する段階では、その際に市民参加の取組みを行い、ニーズを把握する。

- ・ 委員) 施設整備までのスケジュール及びベンチマークを示すべきである。
- ・ 座長) ニーズの把握法については、今現在、利用率が高いかどうか、というものがあり、そういったデータを整理する方法も考えられる。品質・供給・財務などいくつか指標が出ているが、どれを優先するかによっても変わるのではないか。ゴールを何に定めるかによって方法が異なる。
- ・ 委員) 若者まちづくりミーティングの意見を考え方の根拠として挙げているが、限られた人数の参加者の意見のみが計画に反映されるのは適当でない。今後数十年の市の公共施設の整備方針を決める上では、もっと慎重な手順を踏むべきではないか。
- ・ 委員) 市民会議やアンケートを施設整備にどうつなげるか分かる検討手順を示してほしい。
- ・ 委員) プールは民間施設のフィットネスクラブがあれば十分ではないか、隣接する市の公共施設を利用すれば良いのではないか、反対に隣接する市のニーズも踏まえた公共施設を蒲郡市に整備すると良いのではないかとといったように、民間との連携や、広域連携の視点が欠けているのではないか。
- ・ 座長) 公共施設の広域利用については、市民がどこまで施設を利用するために移動するかなどの調査も実施されている。参考になる可能性がある。
- ・ 委員) いかに定住人口を増やすかが重要である。魅力を高めて人口減少を緩やかにする必要がある。安心して生活できることや、観光資源に恵まれていることを打ち出す必要がある。そのためにも、蒲郡駅を中心としたコンパクトシティ化が必要である。コンパクトシティの実現や、中心部でのスクラップアンドビルドが必要であり、ランニングコストを抑えることが最重要である。小中学校を統廃合することも必要ではないか。蒲郡市を経営する視点から考えることが必要である。
- ・ 座長) まち・ひと・しごと創生総合戦略で述べている魅力あるまちづくりと今回議論している魅力は整合しているか。
- ・ 事務局) まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で重視しているのは子育て支援である、その点は実施計画でも触れている。
- ・ 委員) 工場誘致よりも人が住むことを重視する必要がある。居住者にとって魅力あることが重要。また、蒲郡市は自然環境が活用されていない。一次産業をどうするかという視点も必要になる。まち・ひと・しごと創生総合戦略等他の計画を踏まえて、公共施設の計画を立てていくべきである。
- ・ 座長) 戦略とは何でもやることでなく、どこに資源を集中するかを考えることである。
- ・ 委員) 住みやすいと若い人に感じてもらうことが必要である。市外に通勤しても、住んでいる人が多く居れば、魅力も生まれる。また、民間の力を

活用することは重要である。既存の空き家・空き店舗を活用すれば、新しいものを建てるだけでない、まちづくりができるのではないか。

- ・ 委員) 市の体制づくりが最も重要である。組織の一元化と権限の付与、予算を適切に付与して実行を担保する仕組みが必要である。これまでは「縦割り」の体制であり、体制づくりは「1丁目1番地」の取組みと言える。具体的な仕組みを今年度中に作る必要がある。
- ・ 座長) 「一元化する」という言葉だけではなく、体制図などで示せると良い。
- ・ 委員) 企業でも同様であるが、情報管理と共有化は重要である。各セクションを束ねる組織が必要である。本来ならば副市長などが担当するべきではないか。